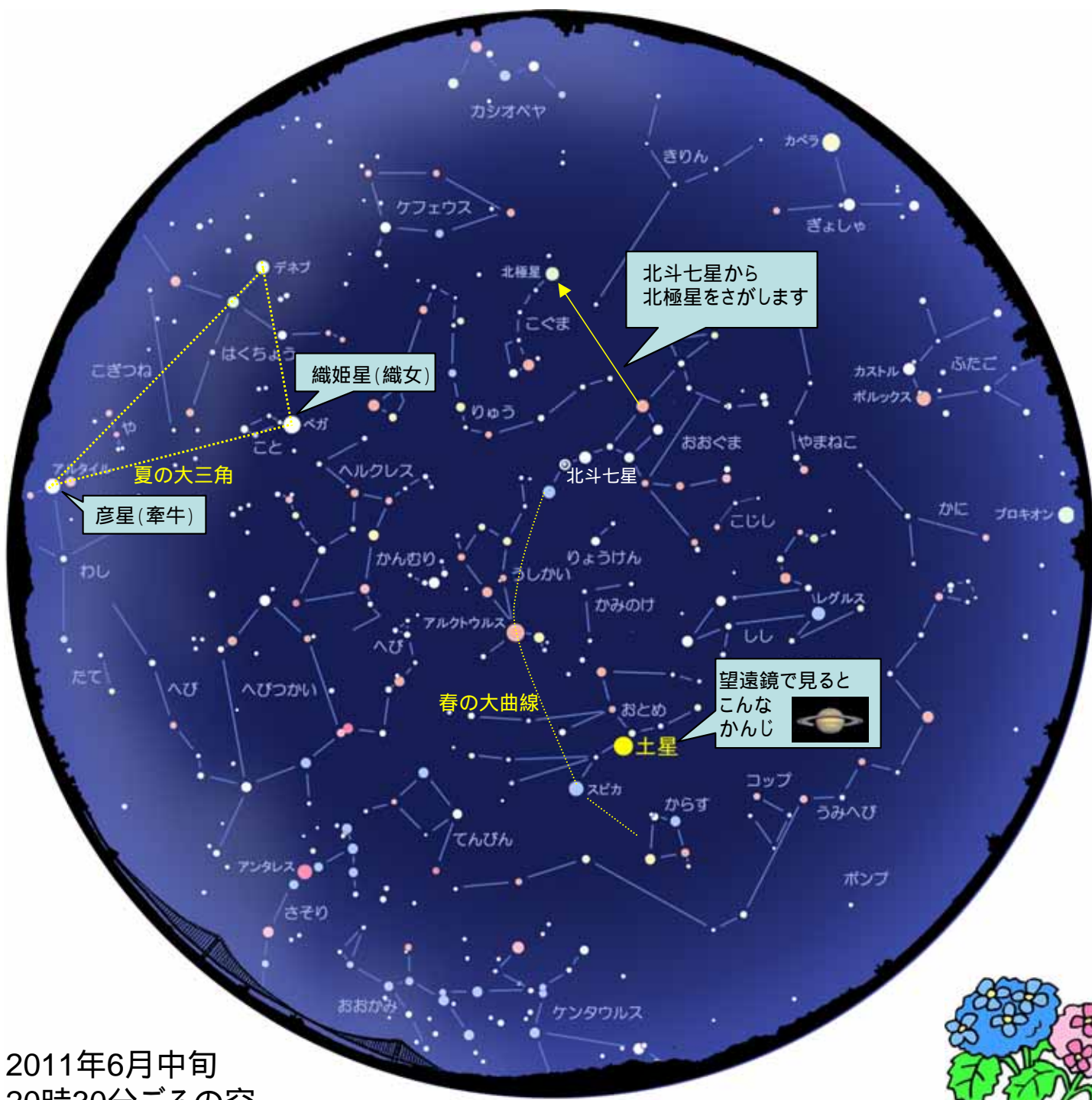


2011年6月の星空



北



東

西

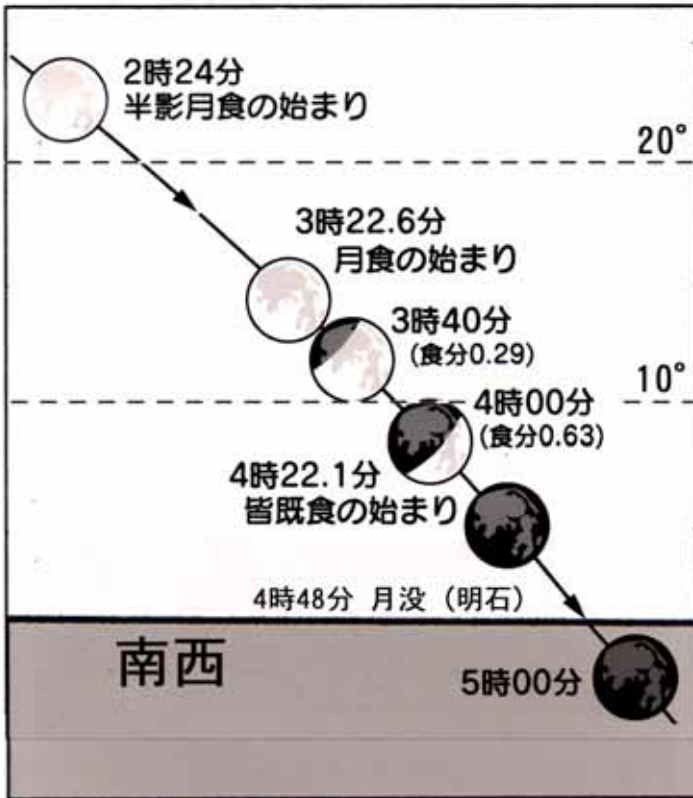
2011年6月中旬
20時30分ごろの空

南



6月は、一年で最も昼が長く夜が短い時期です。梅雨の時期でもあるため天体の観察には不利な時期です。しかし梅雨の晴れ間では、大気が雨で洗い流され、透明度の良い空となり、思いがけず星が多く見える夜もあります。21時ごろの空では、春の星座が天頂から西よりに見えています。おとめ座に位置する土星も見ごろの時期です。東には夏の星座が顔をのぞかせています。今月16日早朝に皆既月食が見られます。詳しくは裏面をごらんください。

6月16日未明に 皆既月食

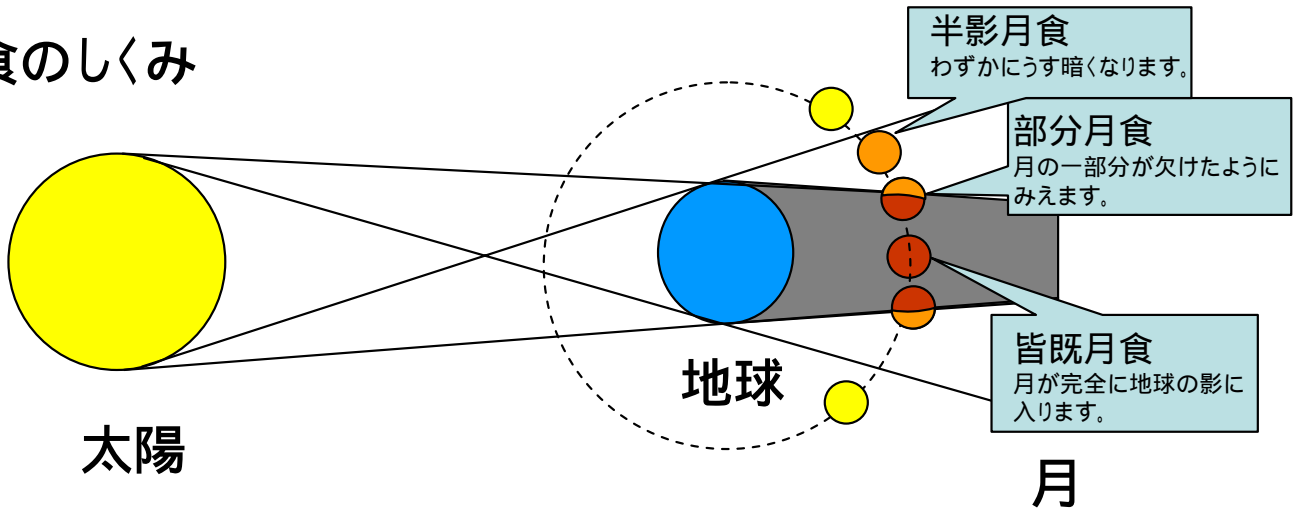


● 6月16日皆既月食の月没帯食
 図版 白河天体観測所提供の図を一部改変しました。

6月16日に皆既月食がみられます。月食は月が地球の影に入る現象です。地球の影は地球から約40万kmほど離れている上に地球には大気があるため、欠け際ははっきりしません。また月が完全に地球の影に入り込む皆既月食の状態でも、地球の大気のために太陽の赤い光が回り込み月面を照らします。そのため皆既月食は赤銅色になります。大気中のチリが多いと回り込む赤い光が少なくなり暗い月食になります。(大きな火山活動があるときなどに大気中のチリが増えます) この月食は、アフリカ大陸、ヨーロッパ、インド、東アジアにかけて見ることができます。

今回の月食は日本では欠けたまま沈む月没帯食(げつぼつたいしょく)となります。明石では4時48分に月がかけたまま地平線に沈みます。梅雨時、西の低空、未明の現象です。また日の出が4時47分ですので現象の最後は空が明るく、観察条件は厳しいかもしれません。南西の水平線が見えるような場所が観察には適しています。双眼鏡があるとより観察しやすいでしょう。次回は12月10日に皆既月食があります。こちらは真夜中ごろに見ることができますので観測条件は最良です。

月食のしくみ



6月の天文現象

- 2日 新月 / 北日本で部分日食
- 6日 芒種
- 11日 月が土星の南8°11' に接近
入梅
- 13日 水星が外合
- 16日 満月 / 皆既月食(明石で観測可能)

- 22日 夏至
- 23日 下弦
- 26日 天王星が西矩
- 28日 冥王星が衝(いて座)
- 29日 月が火星の北1°45' に接近
- 30日 月が金星の北0°5' に接近

